

1 全体計画

学校の教育目標

愛 知恵と命を愛する人 誠 誠実さと真心を大切にすること 剛健 心と体をきたえる人

平成30年度学校経営方針

明るい学校 わかりやすい教育（誤解のない教育）

本校の捉える「確かな学力」

基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの幅広い学力

平成30年度の指導の重点

<各教科>

- ・学力調査等を活用して、自校の課題を的確に把握し、その解決を図る。
- ・「考える」「学び合う」「やってみたくなる」という3段階で1時間の授業を組み立て、指導内容を明確化する。

<道徳>

道徳教育の「要」としての役割を踏まえ、特別の教科「道徳」のスタートにより、さらなる指導方法を工夫し、適切な評価を目指すとともによりよく生きるための基盤となる道徳性の育成を図る。

<特別活動>

児童による自主的・実践的な活動が充実するよう指導内容の重点化を図り、指導方法を改善する。

<総合的な学習の時間>

課題の設定をし、情報収集、整理・分析、まとめ・表現を重視した学習過程を単元・授業の中で繰り返し設定し、主体的に問題を解決する資質や能力を育てる。

<生活指導>

規律ある生活態度の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、児童自らが考え、判断し行動できる態度を育てる。

<進路指導>

児童が自らのよさや能力、適性を把握し、将来への夢や希望、生きがいをもって生活できるよう支援する。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

・言語活動を充実させ、思考力や判断力とともに、表現力を伸ばす。  
・算数科において、低学年から習熟度別に応じた指導に加え、区の教員をT2として活用してさらにきめ細かい指導を行う。

教育課程編成上の工夫

・行事を精選し、授業時数の確保をする。  
・第八中学校区3校（八中、西中野小、鷺宮小）の連携を生かした学習、行事の追求を図る。  
・朝の時間を「繰り返し学習」「読書」「音読」の時間として活用する。

評価の工夫

・指導と評価の一体化のため、単元や各時間の目標を明確にして、授業に臨む。  
・区・都・国の学力調査の結果を分析し、傾向や課題から授業改善を行う。また到達度の低い児童への支援を行う。

校内研究・研修の工夫

・管理職による授業観察と指導  
・小中の連携、キャリア教育を柱に、「主体的な学び」「学び合い」「伝え合い」に重点を置いた授業を行う。

家庭・地域との連携の工夫

・情報の発信と説明責任  
・保幼小中の連携  
・地域や外部の人材の活用  
・家庭と連携した、子供たちの「自学」を推奨する。（学校図書館を活用した水曜日放課後の「鷺寺」と夏休みの自習活動「夏寺」）